

◇◇ 近畿病院図書館協議会 ◇◇

## 平成13年度 第28回 総会 報告

日時：平成14年3月25日（月）

午後1時～4時

会場：ペアーレ神戸 2階 セミナールーム

### 総会プログラム

#### 開会

- 1 会長挨拶
- 2 議長・副議長・書記選出
- 3 議案審議
  - 1) 平成13年度活動報告
  - 2) 平成13年度会計・監査報告
  - 3) 平成14年度活動方針
  - 4) 平成14年度事業計画
  - 5) 平成14年度予算
  - 6) 役員改選
- ～ 小憩 ～
- 7) 平成14年度会長・事務局長承認

#### 閉会

議長：姫路赤十字病院 安東 正子  
副議長：富山市民富山市民病院 高田 幸子  
書記：神奈川衛生学園専門学校 瀬戸 嘉枝

総会員数：123機関

出席：24機関

委任状：58機関

合計：82機関（会員の2/3以上の数をみたし総会成立）

### 議案Ⅰ 平成13年度活動報告

#### はじめに

2001年の近畿病院図書館協議会は、臨床医学の分野で近年の世界的な潮流となっている

Evidence-Based Medicine (EBM)「根拠に基づく医療」に病院図書館員として深い係わりを持った最初の年であったといえよう。EBMの方法論では、エビデンス・レベルの高い文献の選択収集が重要な要素となっている。したがって、図書館員の果たす役割には、これまで以上に情報内容の判断力が求められている。

近畿病院図書館協議会では、昨年1月から京都大学大学院医学研究科と「EBM情報システム・ワーキンググループ」を形成し、慢性関節リウマチ診療ガイドライン策定作業に文献検索分析作業で協力することになった。病院図書館員と大学の医学研究者との協同作業は初めての試みであるが、EBMを実践の中で学んでいく場として今後の展開が期待される。

一方、約3年間に亘って取り組んできた病院図書館研究会との共同事業は、平成12年度をもって両会は中止することを決定し、共同運営ホームページ「folio：フォリオ」は6月30日をもって閉鎖した。また、病院図書館員の専門性を高める目的で取り組んできた「病院図書館員認定資格制度」事業は、活動報告書を両会に提出することをもって、ひとまず終了することになった。

なお、それまでの共同事業の実作業に携わったメンバーが中心になって、両会の組織とは離れて個人レベルで交流を持ち、協同作業や研究活動が続けることになった。7月1日、新しいウェブサイト、LITERIS「リテリス：図書館員によるウェブ医学医療情報リソース選集」(<http://www.hosplib.org/literis/>)を開設した。これには、近畿病院図書館協議会もその意義を認め、サーバースペースを提供している。また同じく、9月には「EBL研究会」を発足させ、EBMを志向した病院図書館員の育成に取り組

む活動を始めた。

デジタル情報の普及が目覚ましい今日、著作権は流動的な要素もあるが、著作権法上の病院図書館の位置付けは不明確と言わざるを得ない。そこで7月25日、文化庁を訪問し、病院図書館の役割を説明し理解を求めた。その他、対外交流では日本医学図書館協会とその地区会、日本病院会などとも例年どおり組織的な交流を持ち、図書館協力を進めた。このように、今年度は対外的な側面において病院図書館員の質的变化の兆候を示す1年であったと言えよう。

協議会内の動向に目を向けると、新会員は6機関あり退会は3機関あって、現在、123機関の会員数である。研修活動では、5回の勉強会と3回の研修会の開催や医学図書館とのシンポジウムの共催があった。日常の実務的な内容から新しいウェブ化医学情報を探るなど多彩な内容であった。出版活動では、会誌『病院図書館』は21巻4号2001年まで発行し、それまでの発行遅れを解消し、内容も図書館業務に密着してさらに充実した。また、逐次刊行物の会員所蔵状況をまとめた『現行医学雑誌所在目録』も2001年度版を発行し、会員間の文献相互貸借のツールとして役立てている。統計調査では、年次統計の調査項目を毎年と隔年に分け、効率化を図った。さらに、懸案だった協議会のホームページ (<http://www.hosplib.org>) 改訂は年度末に達成した。その他、協議会案内の小冊子発行は来年度への積み残しとなったが、概ね順調な事業活動が進められた。

### I-I-1 研修部

#### [第10回勉強会]

日時：2001年5月9日（水）13：00～17：00

場所：大阪府立母子保健総合医療センター

研修会議室

会費：500円

テーマ：オンラインジャーナルの登録手続きのしかた

講師：金平真由美（インフォトレーダー株式

会社 調査部）、大塚一紀（インフォトレーダー株式会社 営業部）

参加者数：17名（含研修部）

#### [第11回勉強会]

日時：2001年6月13日（水）13：00～17：00

場所：星ヶ丘厚生年金病院 小会議室

会費：500円

テーマ：図書室業務の初歩

講師：研修部

参加者数：20名（含研修部）

#### [第12回勉強会]

日時：2001年8月2日（木）13：00～17：00

場所：住友病院付属高等看護学院

会費：500円

テーマ：パソコンともっと仲良く

：Excelその1

講師：亀井真由美（阪和記念病院）

参加者数：15名

#### [第13回勉強会]

日時：2001年8月23日（木）13：00～17：00

場所：住友病院付属高等看護学院

会費：500円

テーマ：パソコンともっと仲良く

：Excelその2

講師：亀井真由美（阪和記念病院）

参加者数：19名

#### [第14回勉強会]

日時：2001年9月12日（水）13：00～17：00

場所：東芝神戸ビル

会費：500円

テーマ：パソコンともっと仲良く：Access

講師：石川忠充（社会保険神戸中央病院）

参加者数：16名

#### [第96回研修会]

日時：2001年10月24日（木）10:30～16:45

場所：住友病院講堂

会費：会員1,000円 非会員1,500円

プログラム：

#### 1. 【医学の基礎知識】

～神経内科領域～老人医学の基礎知識

一脳の若さを保つには一

講師：宇高不可思（住友病院）

2. 雑誌契約更改の現状－アンケート結果報告  
研修部

3. デジタル時代の出版メディア～図書館はどう変わる？

講師：湯浅俊彦（日本出版学会会員・旭屋書店勤務）

4. 【IT-Station】電子ジャーナル管理システムの紹介とデモンストレーション

講師：高柿義一（インフォトレーダー株式会社）  
阿賀嶺恭一（株式会社ハザン商会）

参加者数：24名（会員22、会員外2）

【平成13年度近畿医図協・薬図協・病図協共催シンポジウム】

日時：2001年11月29日（木）13：30～17：00

場所：滋賀医科大学マルチメディアセンター演習室、他

プログラム：

1. 演習：図書館員によるEBM検索オリエンテーション事例

講師：滋賀医科大学附属図書館情報サービス係

2. 講演：生活習慣病の予防とEBMの活用

講師：木之下正彦（滋賀医科大学第一内科）

参加者数：病院図書室関係11名

【第97回研修会】

日時：2002年1月24日（木）10：45～16：45

場所：京都市国際交流会館

会費：会員1,000円 非会員1,500円

プログラム

1. 【病院業務の基礎知識】

病院薬剤師の薬剤情報提供

講師：今川文典（京都市立病院）

2. 病院で利用できる医学情報サービス

講師：松下 茂（株式会社サンメディア）

3. 闘病記データベース

講師：山崎賢二（鳥取大学附属図書館）

4. 患者さんへの医学・医療情報提供

講師：戸津崎茂雄（京都南病院）

参加者数：23名（会員21、会員外2）

【第98回研修会】

日時：2002年3月25日（月）10：00～12：00

場所：ペアーレ神戸

会費：500円

プログラム【事例・研究報告会】

1. 雑誌「病院図書館」読者アンケート結果の報告

瀬戸嘉枝（神奈川衛生学園専門学校）

2. 患者図書サービスへの取り組み

福田香織（医真会八尾病院）

3. 図書室勤務を振り返って－主婦から司書へ  
高田幸子（富山市民病院）

4. 医学図書の寿命について

山室真知子（京都南病院）

5. 臨床ガイドライン作成作業からみた国内医学文献データベースの検索とその結果の比較検討

小田中徹也（国立京都病院）

今年度は3回の研修会（うち1回は事例・研究報告会）、5回の勉強会、並びに近畿地区医学図書館協議会のシンポジウムを行った。年間を通してのテーマとしては、パソコンの活用、電子ジャーナルの導入など、変わりつつある図書室の利用環境への対応が中心となったが、第97回研修会では病院図書室の新たな展開に結びつく可能性の高い患者への医学医療情報の提供を取り上げた。

事例・研究報告会は例年通り公募を原則としたが、今回も応募が少ない現状は打破できなかった。

第96回研修会は時期的に洋雑誌の発注時期にあたったため、雑誌の利用環境を考えると、電子ジャーナルの出版状況、管理などについての講演を中心に開催した。雑誌の出版形態の変化には目を見張るものがある。日常業務への影響も大きくなることは必至である。各担当者も環境整備への認識を新たにできたのではないかと考える。

第97回研修会では患者への医学・医療情報の提供をメインテーマとした。病院図書室での患者さんへのサービスはまだほとんど行われていないが、昨今の医療情勢からは、患者サービスが重要になってきている。そのため、医学・医療情報の提供では図書室がその役割を果たすように求められる可能性が高い。図書館活動のひとつとして今後の展開を見守って行きたい。

各研修会とも、以前より行ってきた、医学の基礎知識、病院業務の基礎知識についての講義を再開した。

勉強会は5回開催した。第10回では電子ジャーナルの登録の実際、11回では図書館業務の第一歩、12-14回ではエクセルの基礎から応用までとアクセスの基礎をシリーズで取り上げた。各回とも多数の参加者を得ることができた。

近畿地区医学図書館協議会平成13年度シンポジウム開催にあたっては、当会からも実行委員が参加した。今回滋賀医科大学のマルチメディアセンターという会場の利点を活かして、図書館員による、学生に行うものに準じたMEDLINE・EBMR・CINAHLのオリエンテーションが行われた。今回も近畿地区医学図書館協会、薬学図書館協会、近畿病院図書室協議会の共催として行われた。

年間を通しての研修部事業の評価としては、勉強会の開催回数を増やしたことである。昨年度は従来の研修会の開催件数が少ないのを補うために勉強会を行ったのであるが、会員にとって参加しやすい研修の場と考えて昨年よりさらに多く開催した。結果としては各回とも多数の参加を得た。ただ、会場の都合もあり人数制限をしなければならなかったため、参加希望に添えないケースがあった。同じ内容で場所を変えての複数回の開催など、今後も検討していきたい。

研修会、勉強会とも内容については概ね好意的な評価を得たが（勉強会後のアンケート調査など）、研修会参加人数については、増加傾向はみられない。以前に比べて当会主催の研修会以

外にも研修の場が増え、日程その他の要件によって参加不参加を決定している様子がうかがえる。なるべく多数の会員の参加を得て、会員間の親睦を深め、相互協力活動の一助とすることも研修会の目的の一つであると考えれば、研修会としては年に一回のセミナー形式のもの（毎年同じ時期に決めて開催する、2日に亘るもの）と事例・研究報告会の開催、それに加えて参加しやすい形での勉強会の開催など、年度計画の見直しを提案したい。

事例・研究報告会は会員が日常業務での創意工夫や研究成果を発表する場である。しかし、毎回発表演題を集めるのに苦慮している。図書室担当者も、他の専門職と同じく、業績が評価の対象になることを希望するが、この事例・研究報告会を発表技術を磨く格好の機会と考えて積極的に活用して欲しい。

今年度は研修部としては昨年よりは多くの部員の協力を得ることができたが、地域の特性を活かした企画の立案など、充実を図るために今後も会員の積極的な研修部活動への参加を希望する。

2001年度の研修部員は以下の通りである。

部長：林 伴子（社会保険神戸中央病院：幹事）

部員：神田智香子（宇治徳洲会病院：幹事）

亀井真由美（阪和記念病院）

北川佳世子（大阪労災病院）

田中 文子（済生会兵庫県病院）

中村 雅子（大阪府立母子保健総合医療センター）

## I-1-2. 編集部

### 1. 活動報告

今年度は会誌20巻4号・21巻1号～4号を発行した。配布部数は、213部（会員122、講読会員68、交換7、寄贈16）、印刷部数は各号300部である。

掲載内容企画について、各号毎に編集会議を行い、編集方針に基づき企画発行することができた。

20巻4号は近畿病院図書室協議会創立25周年記念号として、表紙に金帯をかけることとした。が約4ヶ月の遅れを出し、今年度発行となったことをお詫びしたい。25周年記念フォーラムの記録を中心に、20周年記念号以後、2000年までの過去5年間の活動を掲載した。多くの方々のご協力を得、記念誌編集の役目を果たすことができたことはたいへん光栄であった。また、21世紀に21巻の発行を手がけ、今年度中に昨年までの発行の遅れを取り戻す事ができたことは、更なる喜びであった。

21巻1号より新たに「What's EBM?」をシリーズに加え、わかりやすいEBM知識の提供を目指すこととした。

会誌編集部「編集の手引き」2001年10月改訂版を作成した。用語、用字については、今後も改訂を加えていく。

2000年発行の「濱口恵子著 わかる医学用語」の売れ行きも良く、今後も好評を続けてほしいと願っている。

会誌編集部専用封筒(B5)を作成し、21巻4号より使用した。

(1) 会誌内容概略および発行日：

[20巻] (2000年)

4号 (発行 H.13. 3. 30. 102頁)

近畿病院図書室協議会創立25周年記念号  
記念フォーラム特集「病院図書館と著作権」  
歴代役員名簿 (平成7年度～12年度)  
近畿病院図書室協議会年表 (1995～2000年)  
研修会記録 (1994年71回～2000年93回)  
勉強会記録 (1995年4回～1996年5回)  
名古屋地区・東海地区勉強会 (1994年1回～1998年2回)  
施設見学会 (1994年～1999年)  
総会記念講演 (1995年21回～2000年26回)  
会員業績集 (1995年～2000年)  
「病院図書室」14巻～19巻総索引

[21巻] (2001年)

1号 (発行 H.13. 6. 1. 51頁)

特集：病院図書室の可能性を探る

「What's EBM?」がシリーズに加わる。

京都大学大学院医学研究科医療システム情報学

中山 健夫先生 他

2号 (発行 H13. 7. 26. 69頁)

特集：文献入手のいろは

近畿病院図書室協議会第27回総会記念講演  
「ハンセン病の昔と今」

国立療養所長島愛生園園長 中井榮一先生  
第27回総会報告

会員名簿

会則

他

3号 (発行 H.13. 9. 27. 44頁)

特集：病院管理者の情報収集と病院図書館のあり方

他

4号 (発行 H.13.11.30. 50頁)

特集：図書館業務の再点検

(2) シリーズ掲載について：

「臨床に役立つ雑誌」

20. 麻酔領域の雑誌と病院図書館 (Vol. 21. No. 2)

21. 形成外科雑誌の読み方 (Vol. 21. No. 4)

「いますぐ役立つホームページ」

⑩PubMed マニュアルー日本語版ー (Vol. 21. No. 1)

⑪国立国会図書館 電子図書館 (Vol. 21. No. 2)

⑫LITERIS (Vol.21. No. 3)

「相互貸借のための便利ノート」

⑨申込のルールとマナー (Vol.21.No. 1)

⑩相互貸借マニュアル (Vol.21. No. 3)

「What's EBM?」

①身近な医療情報を読み解くために (Vol.21. No. 1)

②「症例報告」の落とし穴 (Vol. 21. No. 2)

③猛暑と、法律と、犯罪と (Vol. 21. No. 3)

④今だからわかること・将来をみてわかること (Vol. 21. No. 4)

(3) 掲載広告各社 :

サンメディア (裏表紙)	年間契約
ナカバヤシ (B5)	年間契約
ベルブック (B5)	年間契約
医学中央雑誌刊行会 (B5)	年間契約
厚生社 (B6)	年間契約
ユサコ (B5) 単発	21(1)のみ
科学技術振興事業団	年間契約

(4) 編集会議 :

第1回	2001年5月12日	名古屋
第2回	2001年7月14日	名古屋
第3回	2001年8月25日	名古屋
第4回	2001年9月29-30日	松阪
第5回	2002年2月11日	名古屋

2. 次年度編集方針

協議会機関誌としての編集方針を継承し、さらに病院図書館担当者の専門性を高めるために、誌面上から貢献できる記事作りを考える。

読者アンケートの結果、「会員紹介」「図書館員の四季」の読者率が高いことから、これらのコーナーをより身近に感じ、会員間連携の上層効果に役立てられるよう、充実していきたい。

なお、「臨床に役立つ雑誌」、「いますぐ役立つホームページ」、「相互貸借のための便利ノート」、「What's EBM?」のシリーズ掲載を続行していく。

2002年22巻からは、1号より「ふらっと歴史小話」として、エッセイ風の読み物を、「目からうろこ!？」として、日常業務の疑問に答えるコーナーを新しく連載に加え、また2号より「ちょっとこぼれ話」を新連載する。

例年とおり、2号は小特集・総会記事等、3号、4号は特集記事や各論文で編集方針をすすめる、ニュース記事や会員間の情報交換のページを充実するとともに、関連記事(図書館、医療関係)の紹介の充実を計る。従来の読みやすく、親しみがあり、アクティブな誌面づくりを心がけることは継続する。

会則は2号に、投稿規定は毎号掲載する。

新編集部員として、福井県済生会病院図書室

藤井梨枝、医真会八尾総合病院図書室福田香織が加わる。今後も多くの会員の方の参加を募っていく。

3. 会誌読者アンケートについて

会誌2001年21巻4号に読者アンケートを同封した。212機関(個人)に送付し、結果、63機関(個人)より回答があった。

この結果は、第98回事例報告会にて報告した。

4. 部員(2002年3月現在)

- 部長: 森川 治美 (松阪中央総合病院: 幹事)
- 部員: 大仲 牧 (市立岸和田市民病院)
- 大橋真紀子 (社会保険中京病院)
- 春日井泉江 (豊橋市民病院)
- 瀬戸 嘉枝 (神奈川衛生学園専門学校)
- 中嶋 和子 (西宮市立中央病院)
- 濱口 恵子 (高槻赤十字病院)

協力員: 前田 元也

1-1-3 統計調査部

【図書室統計調査報告書の発行】

a. 調査対象期間: 平成12年度(2000年4月~2001年3月)

b. 調査項目: 図書室統計

c. 作業経過:

2001.10.31 調査用紙を発送(122施設)

2001.11.22 回答締切日

2002.3月上旬 報告書の発送(122施設)

d. 回答施設: 69施設(回答率57%)

e. 文献の相互利用-協議会全体での件数-  
-申込-(70施設)

協議会会員 14,950件 (36%)

会員以外の病院 1,694件 (4%)

大学図書館 12,821件 (31%)

文献手配業者 11,171件 (27%)

その他 486件 (1%)

上記区別なし 593件 (1%)

合計 41,715件 (100%)

-受付-(70施設)

協議会会員 10,803件 (77%)

上記以外の病院 2,623件 (19%)

その他	260件 (2%)
上記区別なし	336件 (2%)
合計	14,022件 (100%)

【経費】 93,760円

#### I-1-4 目録編集部

「現行雑誌所在目録 2001年版」の発行

「現行雑誌所在目録 2000年版」の発行に引き続き「現行雑誌所在目録 2001年版」を編集発行した。

本目録には平成13年(2001年)9月20日現在の当協議会会員の内、104機関より提出された2001年の図書室所蔵の雑誌を収録した。収録雑誌のタイトル数は国外雑誌738誌、国内雑誌1,207誌である。2000年版と同じく、相互貸借業務を行っていない機関の所蔵データおよび相互貸借受付に応じられない雑誌のデータは除外した。特に今年度は会員間の相互貸借業務を円滑にすすめるために、会員機関に文献を依頼する機関には、必ず他会員からの依頼を受けて貰うということでデータを提出してもらった。

この目録の発行経費(52万)は会の事業費から支出し、[非売品]として会員に配布した。

「医学雑誌総合目録 2002年版」の発行

「現行雑誌所在目録 2001年版」の発行後、「医学雑誌総合目録 2002年版」の発行準備に着手し、発行形態(冊子・CD-ROM・Web)、所蔵データの収集方法、雑誌書誌データの調査等について検討中である。

尚、総合目録発行年には「現行雑誌所在目録」は発行しない。

I-1-5 会員業績(当協議会内関係での発表は除く)

#### 【講演発表】

- (1) 大橋真紀子(社会保険中京病院)、他  
京都大学大学院医学研究科と近畿病院図書室協議会における、EBM 情報システム・ワーキンググループ活動-中間報告-

第18回医学情報サービス研究大会(松山)  
2001.6.23-24

- (2) 小田中徹也(国立京都病院)  
情報検索 I 「Entrez-PubMed による文献検索」  
日本医学図書館協会第8回医学図書館員基礎研修会(京都) 2001.8.8-10
- (3) 首藤佳子(星ヶ丘厚生年金病院) 大橋真子(社会保険中京病院)  
EBM指向文献の検索-PubMed の効果的な使い方  
第39回日本社会保険医学会総会(大阪)  
2001.11.12-13
- (4) 小田中徹也(国立京都病院)  
ライブラリアンとして診療ガイドライン作成に参加して  
平成13年度厚生科学研究事業「第4回EBM リサーチライブラリアン・ワークショップ」(福岡) 2002.1.22-23
- (5) 山室真知子(京都南病院)  
患者図書サービスの分析と医学情報提供の動向-全国患者図書サービス連絡会の会報事例をもとに-  
第18回医学情報サービス研究大会(松山)  
2001.6.24
- (6) 山室真知子(京都南病院)  
講演:病院図書室の昨日・今日・明日  
第13回 栃木県医療情報ネットワーク協議会総会(足利) 2001.10.1
- (7) 山室真知子(京都南病院)  
講義:医学専門情報の患者・一般市民への公開  
第8回医学図書館研究会・継続教育コース(相模原) 2001.11.15.
- (8) 山室真知子(京都南病院)  
シンポジウム:患者への医学情報提供サービス シンポジスト 山室真知子  
国立長野病院「楽患らいぶらり」開設記念シンポジウム(上田) 2001.11.19

[誌上発表]

- (1) 小田中徹也 (国立京都病院)、他  
診療ガイドライン作成におけるメソドロジ  
ストと病院図書館員とのワーキンググルー  
プ活動  
医学図書館 2001; 48 (4): 418-23
- (2) 小田中徹也 (国立京都病院)  
館種別図書館概況「病院図書室」：近畿病  
院図書室協議会  
図書館年鑑2001年版 日本図書館協会 (投  
稿中)
- (3) 首藤佳子 (星ヶ丘厚生年金病院図書室)  
病院図書館員認定資格制度企画書を提出し  
てー現実と理想の距離ー  
ほすびたる らいぶらりあん 2001 ; 26 (4):  
338-348
- (4) 山室真知子 (京都南病院)  
患者と地域の人々への医学情報提供ー病院  
図書室の役割  
月刊ナースマネジャー 2001; 3 (9) 83-86
- (5) 山室真知子 (京都南病院)  
病院図書室の昨日・今日・明日  
とみねっと No. 46 p. 8-11, 2001
- (6) 山室真知子 (京都南病院)  
分担執筆「病院図書室デスクマニュアル」  
病院図書室研究会 2001  
第14章「病院図書室における患者サービ  
ス」 p. 138-144
- (7) 山室真知子 (京都南病院)  
分担執筆「患者図書サービス・ハンドブッ  
ク」(株)大活字 2001  
第2章「病院主導型サービス」 p.69-80  
第5章第5節「患者への医学情報提供の形  
態」 p.218-220.
- (8) 森川治美 (松阪中央総合病院)  
分担執筆「病院図書室デスクマニュアル」  
病院図書室研究会 2001  
第3章「図書室のプランニング」 p.17-24
- (9) 竹村悦子 (茅ヶ崎徳洲会総合病院)  
分担執筆「病院図書室デスクマニュアル」

病院図書室研究会 2001

第15章「はじめて図書室へ勤務する人のた  
めに」 p.145-154

1-2-1 幹事会

昨年同様、4回の幹事会を開き、会の運営に  
あたった。

第1回 (2001/ 4/19)：社会保険神戸中央病院

第2回 (2001/ 7/12)：淀川キリスト教病院

第3回 (2001/10/18)：国立京都病院

第4回 (2002/ 1/31)：国立京都病院

1-2-2 役員会

平成14年2月26日、社会保険神戸中央病院に  
おいて中村会長出席の下、開催された。まず、  
総会議案書草案を資料に平成13年度の協議会活  
動、各事業活動、会計報告が担当役員からあつ  
た。一部表現上の補足訂正などあつたが、全て  
了承された。次に、次年度の活動方針、事業計  
画、予算の審議に移り、継続事業や取り組む課  
題を協議した。事務局案が概ね了承された中で、  
来年度、著作権問題については当協議会だけで  
なく関連団体や機関とも広く連携を図ることが  
確認された。

次に、来年度の会長については、現会長の中  
村充男社会保険神戸中央病院院長が再選され、  
事務局長については小田中徹也 (国立京都病院  
司書) が同じく再選され、それぞれ総会に諮る  
ことになった。

1-2-3 会員の状況

会員数：123機関 (平成14年2月現在)

(近畿外 40機関、病院外 8機関)

異動：

入会；6機関

科学技術振興事業団 (東京)

市立池田病院 (大阪)

済生会西条病院 (愛媛)

兵庫県立光風会病院 (兵庫)

新日鐵広畑病院 (兵庫)



福井県済生会病院 (福井)  
 退会 ; 3 機関  
 大阪府立成人病センター (大坂)  
 千葉西病院 (千葉)  
 更生病院 (愛知)

1-2-4 対外交流

日本医学図書館協会の第72回総会 (2001/5/17-18 宇都宮・独協医科大学) へは、事務局長の小田中徹也と幹事の山室真知子がオブザーバーとして出席し、役員や会員との交流を図った。また、8月に京都で開催された第8回医学図書館員基礎研修会には、実行委員と講師で協力した。

近畿地区医学図書館協議会の例会では、第78回例会 (2001/4/27 京都府立医科大学) へ事務局長と幹事の山室真知子が出席。第79回例会 (2001/10/25 京都大学) へは事務局長が出席し、第80回近畿地区医学図書館協議会例会 (2002/1/24 関西医科大学) へも事務局長が出席した。さらに、近畿地区地区医学図書館協議会平成13年度シンポジウム (2001/11/29 滋賀医大) ではその実行委員として研修部長の林伴子が従来どおり加わり、当日の参加者も11名あった。なお、当地区協議会ではメーリングリストを設置し、当協議会からは事務局長がこれに加わって情報交換に活用されている。

今年度の日本病院会第23回全国図書館研究会 (2001/10/5-6 東京) の後援名義の使用についても、例年どおり協力した。

対外交流のうち、病院図書室研究会との共同事業については昨年度末を持って中止となったが、その後の会員間での交流については「はじめに」で述べた。また、病院図書室研究会を始めとする各地区ネットワークとは主にそれぞれの会誌や機関紙の交換を通じ、交流している。さらに、京都大学の医学研究者を始め図書館情報学関係や文化庁など、医学・医療系の図書館を越えて交流の幅が広がったことも今年度の特徴である。

議案Ⅱ 平成13年度会計・監査報告

(収入の部)

単位 円

費目	予算額	決算額	摘要
前年度繰越金	495,932	495,932	
会費	3,780,000	3,770,000	H13×116=3,480,000 H12×6=180,000 入会金×6=60,000 賛助会費×1=50,000
事業収入	797,000	582,770	
会誌購読会費	438,000	426,000	H13×60=360,000 H12×9=54,000
研修会費	85,000	96,000	第95~97回研修会参加費 第10~14回勉強会参加費
その他	274,000	60,770	「わかる医学用語」・会誌売上げ
広告掲載料	274,000	338,000	サンメディア、他6社
その他	—	99	銀行利息
合計	5,346,932	5,186,801	

(支出の部)

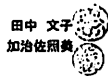
単位 円

費目	予算額	決算額	差引増減	摘要
総会費	150,000	96,700	53,300	選挙・諸書費用 特別講師謝礼
事務費	200,000	52,910	147,090	役員改選案内はがき、封筒 印刷費、銀行手数料、他
通信費	100,000	65,320	34,680	事務局、各部会連絡、 会員宛通信費
交通費	450,000	544,680	-94,680	幹事会・各部会、他
事業費	3,710,000	3,539,405	170,595	
会誌発行費	2,600,000	3,187,490	-587,490	会誌20(4)、21(1-4) 印刷費、発送費、図書券、 他
研修会費	200,000	258,035	-58,035	第95回研修会・第10~14 回勉強会
現行雑誌所在目録	510,000	0	510,000	
その他事業	400,000	93,880	306,120	年次統計作成費
対外活動費	300,000	279,898	20,102	JMLA総会参加費・交通費、 情報研究大会交通費、他
資料費	100,000	48,090	51,910	雑誌購読料 (2誌)
会議費	150,000	126,136	23,864	会場費、他
予備費	150,000	0	150,000	
雑費	36,932	0	36,932	
合計	5,346,932	4,753,139	593,793	

平成13年度 会計監査

収 入	金 額	単 位 円	
		支 出	金 額
前年度繰越金	485,932	総会費	98,700
会費	3,770,000	事務費	52,910
		通信費	65,320
事業収入	582,770	交通費	544,680
		事業費	3,539,405
会誌購読会費	428,000	会誌発行費	3,187,480
研修会費	98,000	研修会費	258,035
その他	60,770	現行雑誌所在目録	0
		その他の事業	93,880
広告掲載料	338,000	対外活動費	279,888
その他	98	資料費	48,090
		会議費	128,138
		雑費	0
		翌年度繰越金	433,862
合 計	5,186,801	合 計	5,186,801

上記決算については、会計監査を終了しました。  
平成14年3月5日



ては病院図書室研究会との共同事業として取り組んだが、実施には至らず残念ながら昨年度をもって中止となった。しかし、図書館員の高い専門性が要求される Evidence Based Medicine (EBM) については、京都大学関係をはじめとする医学や情報学の専門家との協力提携を進め、ワーキンググループ活動、研修活動、会誌記事などで会員への啓蒙普及を図った。また、病院図書館が医療従事者や患者に円滑に図書館サービスを行う上で、今後、避けては通れない「著作権問題」についても、そのスタートとして「25周年記念フォーラム」での討論や文化庁への働きかけを行った。

これらの課題は取り組みの端緒であり、来年度以降も病院図書館員の専門性を高める活動の一環として、関係方面とも連携しながら、様々な形で継続して取り組んでいきたい。

次に、従来からの継続事業については、来年度も医学文献情報活動、教育研修活動、出版広報活動、年次統計調査を実施していく。この中で、1997年版以来の改訂となる『医学雑誌総合目録』の改訂については、来年度は『現行雑誌所在目録』を発行せず、総合目録の編集作業に専念することにしたい。

なお、当協議会の事業活動は会員病院の図書館担当者が役員となり運営に当たっているが、会員間での負担の公平化あるいは世代交代も念頭におき、組織運営を図る必要がある。来年度以降、新役員や新事業部員の拡充を図り、今後、新旧交代が円滑に進むよう会員の協力を得たい。

### 議案Ⅲ 平成14年度活動方針

医学情報のインターネット化は、ウェブ上での文献検索やオンラインジャーナルの普及加速化などめざましい。また、日常業務においてもメールやウェブによる情報入手と発信など深く浸透し、業務や図書館サービスの内容を大きく変えつつある。一方、長引く不況下、病院医療を取り巻く環境も厳しく、そこで働く図書館員の立場も一向に改善の兆しが見えないばかりか、悪化の傾向にある。

当協議会では、近年のこうした動向に対応するため、何よりも病院図書館員の専門性を高めるべく関係方面とも協力し、「資格認定」「EBM」「著作権」などのテーマについて積極的に取り組んできた。

まず、病院図書館員の資格認定制度化につい

### 議案Ⅳ 平成14年度事業計画

#### 1. 医学文献情報活動

- ・「医学雑誌総合目録」2002年版の編集
- ・総合目録データベース (Lettura) の活用

#### 2. 教育研修活動

- ・研修会 (セミナー形式) ・勉強会の開催
- ・関連団体の研究研修会への案内と参加奨励

3. 出版広報活動

- ・ 会誌「病院図書館」の季刊発行
- ・ ホームページの継続と内容更新
- ・ 協会の事業活動紹介の小冊子発行

4. 年次統計等の調査活動

- ・ 年次統計と相互貸借の調査

5. 対外活動

- ・ 京都大学大学院医学研究科との「EBM 情報システム・ワーキンググループ」活動ほか、関連団体機関との交流、連携

議案VI 役員改選

平成14年度選挙管理委員

- 中嶋 和子 (西宮市立中央病院)
- 首藤 佳子 (星ヶ丘厚生年金病院)
- 田中 文子 (済生会兵庫県病院)

平成14年度 役員

- 幹事
- 松本 純子 (住友病院)
  - 山崎 捷子 (淀川キリスト教病院)
  - 山室 眞知子 (京都南病院)
  - 林 伴子 (社会保険神戸中央病院)
  - 森川 治美 (松阪中央総合病院)
  - 神田 智香子 (宇治徳洲会病院)
  - 増田 徹 (藍野学院短期大学)
  - 北川 佳世子 (大阪労災病院)

会計監査

- 高田 幸子 (富山市立富山市民病院)
- 田中 友恵 (神戸市立中央市民病院)

議案V 平成14年度予算

(収入の部)		(支出の部)		単位 円
費 目	金額	費 目	金額	摘 要
前年度繰越金	433,662	総会費	100,000	選挙費用、図書費費用
会費	3,830,000			特別講師謝礼・交通費
平成14年度		事務費	100,000	封筒印刷、年賀状印刷
@30000×121				他
@50000×1		通信費	100,000	事務局・各部会連絡、
平成13年度				会員通知、他
未納		交通費	550,000	役員会、幹事会、各部
@30000×5				会、JMLA近畿地区例
事業収入	569,500			会、他
会誌購読会	462,000	事業費	3,740,000	
費		会誌発行費	2,500,000	会誌20(4)、21(1-4)・
平成14年度				送料、執筆料
@6000×71		研修会費	220,000	定例研修会2回・事例
平成13年度				報告会・勉強会
未納		現行雑誌所	520,000	印刷費、発送費
@6000×6		在目録		
研修会費	107,500	その他事業	500,000	12年度年次統計報告、
定例研修会				インターネット関連
@2000×30×1		共同事業関連	300,000	費、小冊子作成費
事例報告会		費		雑誌総合目録準備費
@500×35×1		資料費	50,000	交通費、他
勉強会		会議費	150,000	
@500×15×4		予備費	150,000	雑誌購読料
その他		雑費	45,162	会場費、他
広告掲載料	452,000			庶務費、雑費
合 計	5,285,162	合 計	5,285,162	

議題VII 平成14年度会長 事務局長承認

平成14年度

- 第十二代・会長 中村 充男  
(社会保険神戸中央病院・院長)
- 事務局長 小田中 徹也  
(国立京都病院図書館室司書)